各中学校ソフトテニス部顧問・監督・コーチの方々へ

 「フェアプレイ」遵守について（確認）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　岐阜県ソフトテニス連盟中学部

　日頃からソフトテニスの活動を通して、生徒たちの健全育成にご尽力いただき、誠にありがとうごございます。さて、ソフトテニスを通して生徒の人格形成を促し、競技力の向上、またソフトテニスハンドブックを尊守し、これに則った競技を円滑に行うため、ソフトテニスのマナーアップについて、次の通り周知徹底をお願いいたします。

　今一度ここで下記についてご確認の上、本件の趣旨を汲み取っていただき、ソフトテニスの発展と、選手のさらなる人間的成長へとつなげていただければと思います。

　確認①　そもそも、スポーツを楽しくするために必要な４つの事。

　①ルールを守ること　②対戦相手を尊重すること　③勝負にこだわること（勝利を目指して全力を尽くす）　④審判に感謝すること　　　　　　　　　　　　　　　抜粋：日本体育協会「フェアプレイリーフレット」

　確認②　スポーツに欠かせない、２つのフェアプレイの意味

　①行動としてのフェアプレイ

　　○ルールと対戦相手と審判の尊重

　　○勝ってもおごらず、負けてもふてくされない

　②フェアプレイ精神（フェアな心「魂」）

　　○善い事か、悪い事かを自分の意思で決めること

　　○恥ずかしくない判断ができる心

抜粋：日本体育協会「フェアプレイリーフレット」

　確認③　フェアプレイ７ケ条

　①約束を守ろう

例　室伏広治ロンドン五輪銅。被災地中学生との約束。「大切な宝物。今後も交流を続けよう」

　②感謝しよう

例　小原日登美ロンドン五輪金。「応援してくれた人にありがとうと言えてよかった」

　③全力をつくそう

例　村田諒太ロンドン五輪金。「努力をしたから報われると限らないが、努力をしなければ報われない」

　④挑戦しよう

例　澤　穂希ロンドン五輪銀「夢は見るものではなく、叶えるもの」

　⑤仲間を信じよう

例　松田丈志ロンドン五輪銀。「康介さんを手ぶらで帰すわけにはいかない」

　⑥思いやりをもとう

例　「One for all , All for one」

　⑦楽しもう

例　三浦和良「真剣にやんないと　面白くないね」

抜粋：日本体育協会「フェアプレイリーフレット」

 そこで、具体的な行動として

あくしゅ、あいさつ、ありがとう！

抜粋：日本体育協会「フェアプレイリーフレット」

を、推奨してまいります。

岐阜県の中学生ソフトテニス競技では、以上のことをふまえ、競技中の応援・声援等はもちろん、会場におけるすべての行動において、「フェアプレイ」に関する内容を遵守し、自他ともに敬い、プレーすることを目指しています。試合後の挨拶では、選手・監督の握手を行います。

　また本趣旨をふまえ、岐阜県中学生ソフトテニス競技での「応援」とは、自分や仲間に対して行うことを指しています。自分や仲間のこれまでの努力の成果としての得点に歓びを表す応援を行います。相手のミスや失敗に対して歓喜、誇張したり、他者の尊厳そのものを傷つけたりする応援はあり得ません。以下の「応援の運用例　Ｑ＆Ａ集」をご参照ください。以上について、ご不明な点があれば、岐阜県ソフトテニス連盟中学部の地区委員長の先生、または中体連ソフトテニス競技専門部の先生にお尋ねください。

岐阜県ソフトテニス連盟中学部の定める「応援」の「運用例」Ｑ＆Ａ集

　Ｑ１・どのような時に、応援はできるのですか？

　Ａ・ポイントが決まり、サービスを行う体勢に入る前まで

サービスの体勢に入ってから、ポイントが決まるまでの間は応援できません。また、「いいぞ」「ナイスボール」「その調子」などの声もプレー中は認められません。選手の集中を妨げるため、インプレー中は一切声を出さないようにしましょう。

　Ｑ２・どのような内容の応援が望ましいでしょうか？

　Ａ・大会や試合は、それまで一生懸命練習して、できた事を認めてあげる発表の場です。

　　　よくやった！できるようになった！努力した道のりがすばらしい！と、これまでの過程を含めて賞賛するように考えてみられるといいですね。

　　　選手が、自分自身に対して「よし！できた！」と、ガッツポーズをしたりすることには、問題ありません。

　Ｑ３・では、逆にどのような内容の応援は避けるべきでしょうか？

　Ａ・対戦相手も大会や試合のために、努力してきています。ですから、相手の失敗を喜んだり、そのことを大げさに言い表したり、ましては相手に対してガッツポーズをしたりするべきではありません。

　　　以下に、最近の大会で見られた「避けるべき」応援の内容について、例を挙げておきますので、参考にしてください。

　相手が失ポイントした場合に

▲「相手に対して、ガッツポーズ」

▲「もうけた」「デカい」「おおきい」「ありがとう」などの発言

▲「ネット近くまで、相手につめよる」

▲必要以上の「ラッキー」　など

　ただ、言葉は時間や場所で変化していきますから、一概に「これはよい。これはいけない。」と区分することには限界があります。先生方が「フェアプレイ」「応援」に対してより深く理解され、現場で活用されていくことが必要です。ご理解とご協力をお願いいたします。

　なお、上記のような発言があった場合、現段階では即刻イエローカードが出るわけではありません。審判から注意があり、その後も続くようであればイエローカードが出されます。フェアプレイの精神を養うためのマナーと理解して、生徒への指導・徹底をお願いいたします。